

伊豆の国市の児童・生徒質問紙結果の概要

よい表れ

- ・自分には良いところがある。先生は自分の良いところを認めてくれている。
→クロス集計の結果から、肯定的に自分を捉える子供たちは学力調査の正答率も高い傾向にあります。
- ・自分と違う意見について考えるのは楽しい。
→人の意見を受け入れることのできる子供は課題解決の場面で問題を柔軟に捉えることができます。このことは学力の定着のみならず、これからの時代に他者と協働して問題を解決する力にもつながります。
- ・人の役に立つ人間になりたい。
→友達や地域の人とのつながりの中で、互いに認め合い、安心感を得て生活しています。子供たちが地域の人たちに見守られて育ち、周りに貢献したいという思いをもっていることが分かります。

課題となる表れ

- ・平日にゲームやSNSなどに2時間以上費やす児童生徒が過半数を超えている。
→使用時間等のルールを決めて、それを守ることを通して自身の要求をコントロールすることを身につけていきます。
- ・自分でやると決めたことを最後までやりとげる、難しいことでも失敗を恐れず挑戦している。
→自分自身で決定する機会を設定し、子供の意見を尊重することを大切にしていきます。
- ・読書に親しんだり、新聞を読んだりする機会がある。
→語彙の量は学力にもよい影響を与えています。知識だけではなく、興味関心の幅が広がり、思考力の形成にも効果を与えています。伊豆の国市では全校に司書を配置しています。

今求められている力を育むために…

- ★学校では、「自ら解決したくなるような問いや課題を設定し、主体的に学ぶ授業づくり」に取り組んでいます。新しい学力観に基づき、子供たちが「自分ごと」として主体的に学ぶことができるように、子供の視点を大切にした授業改善を進めていきます。家庭での学習についても、いろいろ試してその子にあった方法を探してみましょう。
- ★目標（めあて・ねらい）をはっきり示し、どんな学力が身に付いたのかをきちんと振り返る場を位置づけたり、友達との対話から新しい考えを生み出したりすることができるように、見通しが持てる授業を目指していきます。家庭では時間の使いかたを一緒に考えていきましょう。これまでの生活習慣を見直したり、ゲームや動画視聴等の時間のルールを決めたりすることで、大人が一方向的に決めるのではなく、子供自身が納得できるように、一緒に考えることが大切です。
- ★郷土を大切にし、誇りを持てる人を育てるために、家庭や地域と連携しながら開かれた学校づくりに努め、子供たちが活躍できる場を増やしていきます。
- ★「学習状況調査」の結果から、子供たちの良いところを認める方針がよい結果をもたらしていると考えています。お子さんの話を最後まで聞いたり、意見を尊重したりすることが自己肯定感の向上につながります。ご家庭でも取り組んでみてください。